



まほろばだより

2024
June
vol.49

第49号

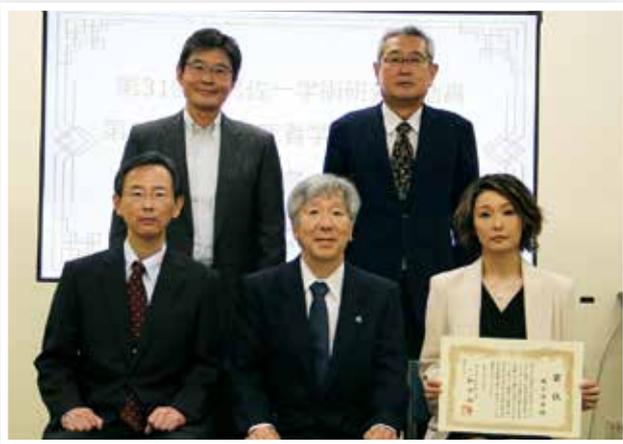


● Contents ●

- Report1 第13回女性研究者学術研究奨励賞 授賞式・受賞講演
- Report2 女性研究者・医師支援センターの新体制
- Report3 6年一貫教育授業・良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」
- Report4 国際ソロプチミスト奈良一あすか授賞式
- Information1 令和6年度下半期研究支援員配置希望者募集

Report
1

第13回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



令和6年6月6日、第13回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を執り行いました。

第13回は、解剖学第一講座の堀井謹子講師が受賞の栄冠に輝きました。授賞式には解剖学第一講座の井上 浩一教授ならびに関係者の方々が出席されました。細井裕司学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、堀井講師が「起こるかもしれない脅威から身を守る神経回路：強迫性障害との関連」について講演されました。



【堀井先生のコメント】

この度は、第13回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞させていただき、誠に光栄に存じます。本研究は、解剖学第一講座・西真弓名誉教授、井上浩一教授ならびにスタッフの皆様、また、女性研究者・医師支援センターの皆様と研究支援員の方々に支えられ進めて参りました。長年にわたり、ご支援いただいた方々に厚く御礼申し上げます。本研究のテーマである防御本能と、それが司る行動は、不安や恐怖といったネガティブな感情と密接な関係にあります。今後は、本研究が人々の心の健康に役立つよう更に発展させて参りたいと思います。



Information
1

令和6年度下半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない常勤の女性研究者・医師（教員、診療助教、病院助教、研究助教）を対象に研究支援員を配置しています。令和6年度上半期は、診療助教2名、臨床系教員5名、基礎系教員1名の合計8名の女性研究者が本制度の利用を申請されました。

令和6年度下半期（令和6年10月～令和7年3月）の希望者募集については、7月に学内一斉メール・学内専用HP等から案内予定です。制度の利用を新たにご検討されている方は、女性研究者・医師支援センターの須崎 康恵 副センター長（内線2525）までお問い合わせください。

女性研究者・医師支援センターの体制について

当センターは、平成23年に吉岡章 前学長が設立され、文部科学省女性研究者研究活動支援事業の補助金を活用して運営を開始しました。平成26年度以降は、細井裕司学長の強いリーダーシップの下、法人の財源で運営を継続しています。この度、平成26年からセンター専任教員として業務に携わってきた須崎康恵マネージャーが、副センター長に就任しました。

6月からは新体制で、研究支援、相談業務、教育活動、調査研究、啓発活動に取り組んで参ります(図1)。

図1 女性研究者・医師支援センター実施体制図



須崎康恵 准教授

副センター長のご挨拶

令和6年6月に女性研究者・医師支援センターの副センター長を拝命しました。これまで本センターのマネージャーとして女性研究者・医師への研究支援、ジェンダーに対する偏見や差別を防ぐ医学教育、女性医師のキャリア形成に関する研究、教職員および学生の相談業務等に従事してきました。令和2年度からは医学部長である嶋 緑倫センター長のご指導の下、研究支援の対象者を拡大して支援内容を充実させています。これら女性研究者・医師への研究支援活動は、女性教員の増加、昇進、競争的資金獲得率向上といった目に見える形で成果を上げています。同時に、目には見え難いですが、さまざまな分野で活躍する女性が教育、臨床および研究指導を担うことで、若い世代の多様性構築にも大きな役割を果たしていると思います。今後益々、女性が男性と協力して対等に力を発揮できるように研究支援や職場環境の整備、教育活動に尽力したいと思います。皆様には引き続き本センターの活動にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

良き医療人育成プログラム 「ロールモデルを探す」の授業を実施しました

医学科2年生117名を対象に、女性研究者・医師支援センターの須崎康恵先生、コーディネーターの裏山悟司先生(生物学)、同センターおよび教育支援課の事務職員が協力し、「ロールモデルを探す」の授業を行いました。第1回は奈良県医師会から樋上謙士理事、山内優美先生をお迎えしました。第2回は嶋 緑倫医学部長にご講演を賜りました。学生たちは講演を熱心に聞き、講演後のグループワークでは書記、司会、発表・回答、質問と毎回違う役割を立派に果たして議論を深めてくれました。ご多忙の中、講演をお引き受けいただき学生に意義あるグループワークの課題をお示しくくださった樋上謙士理事、山内優美先生、嶋 緑倫医学部長に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。学生の皆さんもよく頑張りました。

第1回 5月17日



講演「医師会の役割」
奈良県医師会理事 樋上 謙士 先生



講演「医師の多様性」
山内醫院院長 山内 優美 先生

第2回 5月24日



講演「小児科医から血友病専門医へ：
患者のQOL向上を目指して」
医学部長 嶋 緑倫 先生

第3回 5月31日



講演「医師の男女共同参画」
女性研究者・医師支援センター
須崎 康恵 先生



授業の様子



コーディネーター 裏山 悟司 先生



グループワークの様子

国際ソロプチミストは、女性と女児の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良一あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設されています。また、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

この度、消化器・総合外科学講座の庄雅之 教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた松尾泰子 助教が、国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました。同時に、糖尿病・内分泌内科学講座の高橋裕 教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた紙谷史夏 助教が、国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。

5月23日檀原神宮の養生殿にて華やかな表彰式が執り行われ、国際ソロプチミスト奈良一あすかの吉村悦子 会長から講評・賞状等の授与が行われました。表彰式では、吉村会長はじめ国際ソロプチミスト奈良一あすかクラブの皆さまが、松尾先生と紙谷先生にお祝いの言葉と今後益々の発展を期待する励ましのお言葉をかけてくださいました。本学の女性研究者をいつも勇気づけてくださる奈良-あすかの皆さまの温かいシスターフッドに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞
松尾泰子 助教



国際ソロプチミスト奈良一あすか
大学院女子学生奨学金クラブ賞 紙谷史夏 助教



国際ソロプチミスト奈良一あすか吉村悦子会長とともに



[編集後記]

令和6年度は、新しい研究推進課事務職員2名と活動を開始し、6月からはセンターの体制も新しくなりました。6月3日の辞令交付式で細井裕司学長から、奈良医大という大きな船の一翼を担う覚悟を忘れず業務に励むようお願いを賜りました。奈良医大で働き学ぶ女性が活躍することは、奈良医大船の安全かつ円滑な航行には必須であり、より速くより遠くに進む原動力にもなると信じて、今後も業務に邁進して参ります。

副センター長 須崎康恵

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

